

ラオス研修を終えて

地域枠1年次104105D 東江志月

まず始めに、今回のラオス研修に私たち参加させて頂いた、岩政 学校長、伊左藤 学部長、砂川 学科長、桑江さん、新崎 章さん、またその他の先生方に心から感謝しております。どうもありがとうございました。

私はこの研修で様々なことを体験し、色々なものを見ました。

研修に行く前のラオスのイメージは、田舎で戦前の沖縄のように人々は自給自足の生活をしていると思っていました。しかし実際に到着してみると、とても活気に溢れ、道路は整備されていて私の想像よりもずっと都会でした。一番驚いたことは、ラオスの小学生のほとんどが携帯電話を持っていたことです。現地に直接足を運んでみないとわからないことがあると知りました。2日目にラオスの学生と交流しました。英語で会話をしたのですが、あまり良く伝わらなかったため、自分の英語力不足を実感しました。医者という職業は関係なく、これからたくさんの人々と交流をするために、英語を習得したいです。

夜に行ったレストランでメコン川に沈む夕日を見ました。メコン川の向かい川にある土地はタイと聞いたとき、日本の島国では味わえない世界の広さを感じました。

3日目は4年次の先輩方3人と、6年次の先輩方1人と合流して口腔外科手術を見学させていただきました。手術室に入るのも、手術を見学するのも初めての経験だったので少し緊張していましたが、事前に先輩方が色々アドバイスをしてくれたり、また手術方法などについても教えて頂き、さらに術中でも砂川先生や花城先生が細かく説明してくださったので、安心して見学・学習をすることができました。この手術を通して一番印象に残っているのは、砂川先生がおっしゃった「鬼の手で人の心」という言葉です。特に外科手術などでは、メスを入れる行為はとても残酷に見えるけど、それは医者が、この患者に元気になって欲しいとかもっと良い生活を送ってほしいという願いが、あってからその行為だと教えて下さいました。私はこれを聞いて、砂川先生の優しさにとっても胸を打たれました。どんなに年月を経ても、どんなに多くの患者さんを診察しても、「患者のため」という心懸けは絶対に忘れたくないと思いました。そしてどんなに忙しくても、どんなに疲れていても、ちゃんと患者さんと向き合おうと思いました。砂川先生、ありがとうございます。

今回の研修のスケジュールの中では伊左藤先生と一緒にする機会はあまりなかったのですが、そのわずかな間でも、伊左藤先生は私たち、学生を見かけると、わざわざ先生のほうから話かけて下さいました。忙しい中でも私たちに優しいお言葉かけて下さい、ほんとうにありがとうございます。岩政 学校長とはお話する機会がなかったのですが、この研修を学生も同行するように企画したのは岩政さんとお聞きしました。貴重な体験をする機会を与えて下さい、ありがとうございます。また、桑江さんと新崎さんも、この旅中に私たちを安全でいられるように色々面倒を見て下さり、ありがとうございます。最後に、この旅中に色々アドバイスをくれた先輩方と、一緒に学ぶことができた地域枠の学生6人に感謝したいと思います。本当にみなさんありがとうございました!!!!